

第18回

夫婦の手紙・絵手紙
コンクールいい夫婦の日に
感謝の手紙夫婦の絵手紙
最優秀賞作品相京史子さん
(千葉県)

本コンクールは、地名の「限府」と英単語の「wife（ワイフ＝妻）」が同じ読みであることに加え、「おしどり夫婦の里」(妻(ワイフ)を大切にすることをPRとして、平成17年にスタートしました。

18回目を迎えた今回は、全国各地から手紙の部に121点、絵手紙の部に89点、合計210点の応募がありました。

入選作品28点は市の観光サイトに掲載中です。応募作品は1月15日(日)まで観光交流館で展示しています。

入選作品を見ること
ができます。



11月22日に表彰式を開催

5組7人が参加し、終始和やかな雰囲気の中、式が進められました。オンラインでの参加もあり、受賞者の作品に込められた思いに会場は温かな拍手に包まれてました。

夫婦の手紙
大賞作品一柳博之さん
(岐阜県)

君がケガで入院した時、僕は障がいのある娘の世話をすることになりました。それまでずっと娘のことは君に任せきりでしたね。それが急にこういふことになって、初めてその大変さを実感したのです。普段はどうしても、お互いに色々なことをつい当たり前だと思いがちだけど、それは違うのだということがよく解りました。退院の日、久しぶりに自宅へ帰った君は、娘を見つけると大声で名前を呼び、強く抱きしめた。顔は涙でポロポロ。もう声にならない。でもやっとの思いで僕に一言「色々ありがとう」と言ってくれました。もう結婚して二十五年になるけど、僕たちはこの時、初めて本当の夫婦になれたような気がします。

お互いに協力しあう、そしてお互いに感謝の気持ちを持つ、そしてそれを言葉にする。それで初めて認め合うことが出来るのですね。今まで家族を支えてくれてありがとう。これから僕と二人で支えていきましょう。お互いに感謝することを忘れずに。

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

未来人財育成塾を通して

七城中学校3年 城咲和奈さん



私は今回の未来人財育成塾に参加させていただき、とても多くの経験をすることができました。いろいろな先生方の講義や同じ中学生との交流の中で多くのことを学びました。

まず、何事も知ることが大事だということ。今、日本や世界で起きているさまざまな問題について学ぶことができたが、どれも今の自分では解決できそうにないものばかりで、自分には何ができるのかわかりませんでした。ですが、講義をしてくださった先生の多くは、まずは知ることが大事だとおっしゃっていました。

今起きていることを知らなければ問題に向き合うこともできません。また、自分が日常生活で何気なくしている行動が、環境破壊につながっていることに気づくこともできないと思います。今起きていることを知り、自分の生活を見直すことが問題解決の第一歩につながるということがよく分かりました。

そして、今回の講義の中で特に印象に残ったことが二つあります。一つ目は「レジ袋とマイバッグはどちらを使った方がCO2の排出量を減

らすことができるか」という菊池康紀先生からの問いです。私は当然マイバッグを使う方がCO2の排出量が少ないと思っていました。しかし、正解は「消費者の使い方によって変わってくる」というものでした。レジ袋をすぐに捨てるのではなく、ごみ袋として活用したり繰り返し使用したりすることで、CO2の排出量は大きく変わることが知りました。

二つ目は、佐藤真久先生の講義の中で「SDGsの目標一つ一つ別でみるのではなく、すべてつながっているものとして見るのが大切」という言葉です。例えば、経済成長だけに力を入れていくと環境問題がますます悪化してしまうかもしれません。このようなことを防ぐためにも視野を広げてさまざまな問題に柔軟な対応をすることが大事だと分かりました。

私はこの二つのことから、自分の行動一つ一つに責任を持ち、広い視野で正解のない問いを考え続けることが大事だと感じました。今回学んだことを学校みんなに伝えたり、一つ一つの物の行方を理解し使い方を考えたりしていこうと思います。

最後に、私は今回初めて東京に行って見るものすべてに刺激を受けました。満員電車に乗ったことやホテルの近くで見た東京スカイツリーなど、熊本では見ることができないものを見ることができて、とても良い経験になりました。

しかし、1日目にモノレールから見た川がとても汚れていたことに衝撃を受けました。そこで改めて菊池市の自然の豊かさ、素晴らしさに気づくことができました。幼い頃から遊んでいた川のきれいな水や、蛇口から出る水がおいしいことが当たり前ではないことが改めてよく分かりました。

これからは、もっといろいろなことに興味を持ち、そこで得た知識や経験を生かして、自分にできることから始めていこうと思います。今回、このような機会を設けてくださり、ありがとうございます。